



2021年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年8月13日

上場会社名 株式会社プラスアルファ・コンサルティング 上場取引所 東
 コード番号 4071 URL https://www.pa-consul.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三室 克哉
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 コーポレート部門担当 (氏名) 野口 祥吾 (TEL) 03(6432)0427
 四半期報告書提出予定日 2021年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第3四半期の業績 (2020年10月1日~2021年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第3四半期	4,405	—	1,512	—	1,492	—	976	—
2020年9月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第3四半期	24.41	22.87
2020年9月期第3四半期	—	—

- (注) 1. 当社は、2020年9月期第3四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2020年9月期第3四半期の数値および2021年9月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
 2. 当社は、2021年2月10日付で普通株式1株につき40株の株式分割を行っておりますが、2021年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。
 3. 当社は、2021年6月30日に東京証券取引所マザーズに上場したため、2021年9月期第3四半期会計期間末までの潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から2021年9月期第3四半期会計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第3四半期	5,442	4,455	81.6
2020年9月期	4,473	3,576	79.7

(参考) 自己資本 2021年9月期第3四半期 4,443百万円 2020年9月期 3,565百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	—	0.00	—	205.00	205.00
2021年9月期	—	0.00	—	—	—
2021年9月期(予想)	—	—	—	5.94	5.94

- (注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 2. 当社は、2021年2月10日付で普通株式1株につき40株の株式分割を行っております。2020年9月期につきましては、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。当該株式分割を考慮した場合の配当金の額は5円13銭であります。

3. 2021年9月期の業績予想 (2020年10月1日~2021年9月30日)

業績予想に関する序文

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,000	26.9	1,838	28.5	1,821	26.0	1,191	16.1	29.77

- (注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無
 2. 当社は、2021年2月10日付で普通株式1株につき40株の株式分割を行っておりますが、2021年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2021年9月期3Q	40,050,000株	2020年9月期	40,000,000株
2021年9月期3Q	一株	2020年9月期	一株
2021年9月期3Q	40,000,366株	2020年9月期3Q	一株

- (注) 1. 2020年9月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、期中平均株式数（四半期累計）は記載していません。
2. 当社は、2021年2月10日付で普通株式1株につき40株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたものと仮定し、期末発行済株式数、期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

なお、当社は、前第3四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析は行っていません。

あらゆる情報がデジタル化されビッグデータ化する中で、当社は「見える化プラットフォーム企業」のビジョンのもと、先進的なテクノロジー活用によるデータを可視化する技術を武器に、ビッグデータ活用による企業の業務効率化や意思決定を支援するサービスを展開しております。

当第3四半期累計期間においては、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて経済活動全般において停滞が見られましたが、企業のデジタル化シフトによる働き方の見直しや業務の自動化・効率化などへの取り組みが続いており、それらを支援するソフトウェアについては高い需要が維持されております。特に当社が手掛けるSaaS型クラウドサービスはシステムの拡張性が高く、また導入までの期間やコストなどのハードルが低いことから、企業規模や業種を問わず投資意欲が高く、市場成長をけん引しております。

当社では、2008年5月に見える化エンジンのサービスを開始した後に、2011年7月にカスタマーリングス、2016年9月にはタレントパレットと数年間隔で新しいソリューションをスタートさせております。いずれも継続収益が大部分を占めるSaaS型サービスであることから、それぞれの事業の売上を拡大することで成長を継続しております。全ての事業は黒字化しており、各事業の利益が積み重なることで、全社ベースでの利益は拡大を続けております。

新規顧客を獲得するための活動としては、マス広告やWeb広告等によるオンラインマーケティング、展示会等へのイベントへの参加により、当社サービスに関心をもつ顧客を集客し、サービス説明やデモを実施しながら受注を獲得してまいりました。コロナ禍の環境において、一部の業種での解約や、展示会などのイベント縮小など影響はあったものの、営業活動をWebセミナーなどに切り替え、またオンラインでのサポート充実を図るなど活動をシフトした結果、事業上の影響は軽微であります。

以上の取り組みの結果、当第3四半期累計期間における売上高は4,405,524千円となり、前年の高成長を継続しております。また将来の大きな市場獲得を見据えてマーケティング投資などの積極的な成長投資を継続した結果、営業利益は1,512,494千円、経常利益は1,492,200千円、四半期純利益は976,502千円となっております。

セグメント別の経営成績は次の通りであります。

<見える化エンジン事業>

見える化エンジン事業は、コールセンターやマーケティング部門に集まる顧客の声に加え、近年拡大してきたソーシャルメディア上での口コミを分析できるツールを提供しております。当事業では「顧客体験フィードバック」のコンセプトのもと、企業が顧客に提供したい顧客体験と、顧客の感じ方のギャップを分析する仕組みを提供しており、企業の商品・サービスの改善に対するソリューションとして事業展開を図っております。

顧客の声をマーケティングに活かす取り組みは着実に浸透してきていることから、当サービスへの引き合いも堅調に推移しております。ツール単体としての提供だけでなく、分析ノウハウや分析結果の活用方法などをコンサルティングとして提供しつつ、顧客内の幅広い部門での活用を促す取り組みを強化しており、受注案件の大型化が進んでいるほか、既存顧客についても活用シーンの拡大とともに顧客単価が上昇しております。足元では、ソーシャルメディアでの消費者ニーズの把握やコールセンターやコンタクトセンターなどで社内ナレッジ蓄積、データ分析、業務効率化等を目的としたサービス導入が好調に推移しております。

以上の結果、当第3四半期累計期間におけるセグメント売上高は1,236,763千円、セグメント利益は751,445千円となりました。

<カスタマーリングス事業>

カスタマーリングス事業は、企業が顧客属性、購入履歴、メール配信への反応などの情報に基づき、最適なキャンペーンを実施できる統合ツールを提供しております。当事業では「実感型デジタルマーケティング」のコンセプトのもと、データの効率的な活用にとどまらず、オンライン施策が顧客行動に与える影響を見える化し、次の施策決定の際に分析結果を直接活用できるソリューションとして事業展開を図っております。

電子商取引市場の拡大により、顧客とのデジタル接点から収集した情報を次のマーケティング施策に活かす取り組みが広がっており、当サービスへの引き合いも堅調に推移しております。足元では、新規顧客獲得が想定通り進捗していることに加え、既存顧客の利用度拡大によるプランアップなどが収益拡大に寄与しております。

以上の結果、当第3四半期累計期間におけるセグメント売上高は984,790千円、セグメント利益は266,582千円となりました。

<タレントパレット事業>

タレントパレット事業は、企業内に散在している社員スキル、適性検査結果、職務経歴、人事評価、従業員アンケート、採用情報などの人材情報を集約して分析・見える化ができるプラットフォームを提供しております。働き方改革や労働人口減を背景とした人材活用プロセス（採用、教育、配置、評価）の質的向上や効率化を目指した人事系ソフトウェアの市場は急拡大しております。当社では、顧客基盤の拡大に向けて、先行的に積極的なマーケティング投資を実施しており、導入社数は急速に増加しております。

当事業では、人材情報をデータで見える化し、分析的視点での人事戦略を実現する「科学的人事」のコンセプトのもと、継続的にサービスの機能強化を図っており、導入企業へのコンサルティングを通じて蓄積された分析ノウハウや活用方法などをサービス強化に結び付けております。足元では「採用管理機能」「後継者育成機能」「組織診断機能」などのサービス強化を図るほか、Webセミナーの積極開催などの施策により引き合いが増加しております。新規に導入する顧客については、従業員数が多い大手企業が増えていることから、全体の顧客単価が上昇しており、収益拡大に寄与しております。

以上の結果、当第3四半期累計期間におけるセグメント売上高は2,183,970千円、セグメント利益は1,037,507千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は4,857,529千円となり、前事業年度末に比べ960,332千円増加いたしました。

これは主に現金及び預金が808,436千円増加したことによるものであります。

固定資産は585,019千円となり、前事業年度末に比べ8,523千円増加いたしました。これは主に有形固定資産が30,944千円増加した一方、投資その他の資産のその他に含まれる繰延税金資産が25,144千円減少したことによるものです。

この結果、総資産は5,442,548千円となり、前事業年度末に比べ968,855千円増加しました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は987,447千円となり前事業年度末に比べ90,402千円増加しました。

これは主に買掛金が23,435千円、流動負債のその他に含まれる未払金が63,861千円増加したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は4,455,101千円となり、前事業年度末に比べ878,452千円増加いたしました。

これは主に利益剰余金が771,502千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は81.6%（前事業年度末は79.7%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年9月期の業績予想につきましては、前回報告した内容から変更はありません。

当社の事業環境としては、企業活動においてデジタル化シフトが続いており、業務の自動化や効率化につながるクラウド型のサービスについて、引き続き高い需要が継続すると予想しております。このような環境の中で、各ソリューションにおいては差別化につながる独自機能の開発を継続的に行っているだけでなく、特に下期においては 認知度を高めるためのマーケティング費用を積極的に投入しております。

以上により、2021年9月期の業績予想につきましては、売上高は6,000百万円（前期比26.9%増）、営業利益は1,838百万円（前期比28.5%増）、経常利益は1,821百万円（前期比26.0%増）、当期純利益は1,191百万円（前期比16.1%増）を見込んでおります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,251,129	4,059,565
受取手形	11,394	1,610
売掛金	549,205	625,945
仕掛品	1,355	10,048
貯蔵品	6,197	5,827
その他	78,671	154,716
貸倒引当金	△756	△185
流動資産合計	3,897,196	4,857,529
固定資産		
有形固定資産	88,232	119,177
無形固定資産	3,164	2,075
投資その他の資産		
その他	485,483	463,766
貸倒引当金	△385	—
投資その他の資産合計	485,098	463,766
固定資産合計	576,495	585,019
資産合計	4,473,692	5,442,548
負債の部		
流動負債		
買掛金	61,753	85,188
未払法人税等	255,701	273,712
賞与引当金	101,491	56,196
その他	478,097	572,349
流動負債合計	897,044	987,447
負債合計	897,044	987,447
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	63,475
資本剰余金	—	53,475
利益剰余金	3,555,352	4,326,855
株主資本合計	3,565,352	4,443,805
新株予約権	11,295	11,295
純資産合計	3,576,648	4,455,101
負債純資産合計	4,473,692	5,442,548

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)
売上高	4,405,524
売上原価	1,273,861
売上総利益	3,131,663
販売費及び一般管理費	1,619,168
営業利益	1,512,494
営業外収益	
受取利息	16
有価証券利息	3,140
助成金収入	5,309
その他	260
営業外収益合計	8,726
営業外費用	
株式交付費	16,835
上場関連費用	10,500
その他	1,684
営業外費用合計	29,019
経常利益	1,492,200
税引前四半期純利益	1,492,200
法人税、住民税及び事業税	490,553
法人税等調整額	25,144
法人税等合計	515,697
四半期純利益	976,502

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年6月30日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。上場にあたり、2021年6月29日を払込期日とする有償一般募集（ブックビルディング方式による募集）による新株式50,000株の発行により、資本金が53,475千円、資本剰余金が53,475千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が63,475千円、資本剰余金が53,475千円となっております。

(セグメント情報等)

当第3四半期累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期損益計 算書計上額 (注) 2
	見える化 エンジン事業	カスタマーリ ングス事業	タレント パレット事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,236,763	984,790	2,183,970	4,405,524	—	4,405,524
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,236,763	984,790	2,183,970	4,405,524	—	4,405,524
セグメント利益	751,445	266,582	1,037,507	2,055,535	△543,040	1,512,494

(注) 1. セグメント利益の調整額は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。